

# 2016年度U-32 Young Officials' Camp 2016 報告書

作成者：上杉 侑里子（東京都・A級）

開催日時	平成 29 年 1 月 7～9 日	開催場所	国立代々木競技場第一体育館・会議室
講師	阿部 哲也氏 宇田川 貴生氏 片寄 達氏 平 育雄氏 安西 郷史氏 上田 篤拓氏 岩田 千奈美氏 高森 英樹氏		
受講生	30 名（S 級 4 名、A 級 8 名、次年度昇格者 10 名、B 級 8 名）		
講義日程	<1月7日（土）>		
講義内容	<p>14 時 00 分 講義① <b>【審判「早期育成について」 平 育雄氏】</b></p> <p>本研修は 2011 年から始まり、63 名の審判員が参加した（内現在 15 名：S 級、5 名：国際審判員）。早い段階から国際審判員資格取得へのモチベーションを高めること、早い段階から国内トップのリーグや審判、分析方法等に触れることを目的としている。FIBA の国際審判員資格取得にあたってのシステムが今後変わっていく中、国際審判員になるために自身がどう具体的に準備をしていくのか等について研修の導入としてお話をいただいた。</p> <p><b>【「ガイドライン」解説 宇田川 貴生氏/安西 郷史氏】</b></p> <p>今年度 B リーグおよび WJBL が行われる中で各リーグ担当審判員に対し『2016-17 シーズン 審判ガイドライン』が JBA 審判部より発信されている。このガイドラインを活用することにより審判間での判定の相違やミスを減らし円滑にゲームを運営したり、チームやコーチ、プレイヤーに対し説明責任を果たす上でルールブックと合わせ有効なガイドとなったりしている。内容として『1. 悪い手・腕・肘の整理』『2. スクリーンプレイ』『3. アンスポーツマン・ライク・ファウル』の 3 つの項目が挙げられており、特に悪い手等の使い方（Hand Checking）については FOM（Freedom-of-Movement：オフェンス・ディフェンス共にコート上を自由に動く権利）を確保する上で、軽い判定（チープなファウル）と区別し触れ合いの度合いで判断せず整理すべきプレイであることが重点的に説明された。悪い手等の使い方についてはゲームの序盤に基準を示さなかったことにより終盤になるにつれて判定できなくなり、より激しいコンタクトが起き、ゲームが荒れ Good Game でなくなってしまうことが多い。リオ五輪でも悪い手の使い方については、触れ合いの度合い関係なく判定されていることを映像でも確認することができた。その他の項目についても映像で確認をした。</p> <p>17 時 00 分 女子準決勝観戦 終了後ガイドラインと照らし合わせての振り返り</p> <p>18 時 00 分 講義② <b>【3PO メカニクス：上田 篤拓氏】</b></p> <p>3PO メカニクスについて上田氏より映像を用いながら解説をしていただいた。3PO を行う上での基礎的な動きや見方、留意点等を中心とした内容だった。</p> <p>&lt;1月8日（日）&gt;</p> <p>9 時 15 分 FADP 国際審判研修講義 聴講</p> <p>日本女子代表監督内海知秀氏をお招きし、日本女子代表がリオ五輪の切符を手にする前から実際にリオ五輪に出場したことで得た世界（特にアメリカやヨーロッパ）との違いや、実際にコート上で他国の国際審判員がどのようなものを判定し、今後日本がどのように変わっていくべきなのかといった視点からお話をいただいた。日本と世界との違いはフィジカルに大きく現れて</p>		

おり、スクリーンをかけようとした日本選手が触れ合いによりよろけた結果ファウルになってしまったケースが象徴的でフィジカルが弱い方がファウルになってしまうこともあった。その他にもガイドラインにもあった悪い手の使い方やトラヴェリングについて徹底して判定をされたとのことだった。監督という立場から見た日本女子の今後や審判に対する想い、日本全体をチームや審判が協力していく必要性についてお話をいただいた。

12時00分 AJ男子準決勝観戦 【アルバルグ東京 vs 川崎ブレイブサンダース】

15時00分 講義③ 【映像研修：片寄 達氏/上田 篤拓氏/準決勝担当審判員】

男子準決勝観戦後、担当した3名の審判員の方々を交えて映像解析・研修を行った。本講義では前日に学んだガイドラインと3P0メカニクスの両視点とルールブックを照らし合わせながら、実際にゲームを見た記憶を再度視覚的に確認し、言語化し、最終的には自身の中に取り込むという解析方法を行う講義だった。実際にゲーム中大きな現象が起こり、それについてどうしたらいいか受講生全員で意見を出し合った。意見を出し合った後、講師より今回のような大きな現象が起きた際重要となることとして『審判間でのコミュニケーション・情報共有』『時系列に何が起こったかの確認』等が上げられた。その他にも今回のような大きな現象（ノイズ）が起こった後というのは審判も精神的に動揺してしまうことがあるが、その後も自分達の集中力を更に高め正しい判定をし、（ゲームやプレイヤー自体も波打っているような状態になるため）ゲームをフラットな状態に戻していく努力をすることが大切であるとのことだった。

<1月9日（月祝）>

10時00分 講義④ 【映像・語学研修：上田篤拓氏】

10時30分 講義⑤ 【映像・プレイコーリング：宇田川貴生氏/片寄 達氏/上田篤拓氏】

片寄氏がBリーグを担当する上でゲーム前に行っていること（「把握」「管理」）を、実際に用いているパワーポイントを使用しながら重要な内容について説明をいただいた。

まとめ  
謝辞

今回この研修会させていただき、私自身A級として4年を過ごし、もう一つ上のランクに何故上がれないのか、今後「何を」「どうすればいいのか」具体的に考えていくためにとても有効で有意義な研修会でした。

本研修の中で講義内容とともに幾度と取り上げられたものとして「アクション（仕掛け）」と「リアクション（反応）」の違いを正しく捉えることについて多く説明されていました。これまで自身が審判をしてきた中で、リアクションで判定をしてしまっていなかったか、本当にアクションを起こし責任があるのはどちらのプレイヤーなのか見極めて判定することができていたのか考え直すきっかけとなりました。そのためにガイドラインをよく理解すること、ルールブックと合わせ常に正しく一つ一つの判定に取り組むことの重要性を再認識しました。今回学んだことを今後の自分自身の審判活動に活かし更に研鑽を積むとともに、ブロックや連盟での後進指導にも役立ててまいりたいと思います。

最後に本研修会に参加にあたり、あたたかくご指導くださいました阿部哲也審判部長をはじめ講師の皆様、私を推薦して下さった久保東京ブロック長、ご準備から当日の様々な面でご対応いただきましたJBA 審判部岩田様、上田様、高森様に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上杉 侑里子

